

東成区を知る —^{たまつくりくろもんしろり}玉造黒門越瓜—

中国古代の越の国から伝わった瓜なので、越瓜と書いてシロウリと読みます。もともと西成郡の名産であった木津越瓜が、東成郡にも栽培が広がって名産となりました。玉造辺り(黒門橋のあった猫間川の流域に広がる土地)で作られたため、地名をかぶせて玉造黒門越瓜(たまつくりくろもんしろり)と呼びました。

毛馬胡瓜(けまきゅうり)などとともに、「なにわの伝統野菜」に認定されています。東成区のキャラクターの一つである「うりちゃん」も、この越瓜にちなんで作られたものです。

『なにわ大阪の伝統野菜』なにわ特産物食文化研究会
編著 農山漁村文化協会 2002 *

『なにわの伝統野菜』大阪府立農林技術センター 2001
*

『なにわの伝統野菜玉造黒門越瓜へのいざない』東成区
役所市民協働担当 2009 *

「東成図書館」→「東成区を知る」→「郷土史よくある質問」→
『玉造黒門越瓜(たまつくりくろもんしろり)について』



東成区のキャラクター「うりちゃん」

この調べかたガイドでは、東成区の歴史をテーマに4つのトピックを選び出し、それについて調べるのに役立つ情報源を、わかりやすく紹介しています。

東成図書館に所蔵しているものは、書誌事項の後に*をつけて表示しています。(* の無いものも所蔵館から取り寄せできます。)

WEB 大阪市立図書館のホームページ

紹介した資料やホームページなどはほんの一例です。図書館ホームページ「おおさか資料室」や各館のページにも「よくある質問」や区に関する資料のリストを掲載しています。

より詳しくお知りになりたいときは、図書館のカウンターへご相談ください。図書館司書がお手伝いします。

調べかたガイド: 各区版 東成区の調べかた

東成区の史跡・名勝・建築

^{くらがりがえならかいどう}
—暗越奈良街道—

東成区の人物・伝説 —^{らくごそう}楽語荘—

東成区の民俗・文化—^{すげがさ}深江の菅笠—

東成区を知る—^{たまつくりくろもんしろり}玉造黒門越瓜—



東成区の花「バラとパンジー」

大阪市立東成図書館

〒537-0014 大阪市東成区大今里西3-2-17

TEL 06-6972-0727

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp>

開館時間

火～金曜日(第3木曜日は休館)

10:00～19:00

土・日曜日、祝・休日

10:00～17:00

休館日

●月曜日、第3木曜日(祝・休日は開館)

●年末年始●蔵書点検期間

東成区の調べかた

Ver.4 2026.3改訂

東成区の史跡・名勝・建築

— くらがりごえならかいどう
— 暗越奈良街道 —

暗越奈良街道とは、大阪と奈良を結ぶ旧街道で、“暗峠(くらがりとうげ)”を越えるためそう呼ばれました。現在の国道308号線、大阪府道・奈良県道702号線がこの街道をほぼ踏襲しています。峠付近は急な坂道にもかかわらず、大阪と奈良を最短距離で結ぶ道だったため、お伊勢参りなどで大変にぎわいました。現在も、街道に沿って、古い道標が残されています。

- 『大阪の街道』神野清秀著 松籟社 1989 *
- 『大阪市の旧街道と坂道：増補再版』旧街道等調査委員会編 大阪市土木技術協会 1987 *
- 『大阪の街道と道標：改訂版』武藤善一郎著 1999 *
- 『東成区史』大阪都市協会編 東成区制七十周年記念事業実行委員会 1996 *
- 『暗越奈良街道ガイドブック』『暗越奈良街道』編集委員会編 読書館 2012 *
- 「東成図書館」→「東成区を知る」→「郷土史よくある質問」→『暗越(くらがりごえ)奈良街道について知りたい』

— らくごそう
東成区の人物・伝説 — 楽語荘 —

昭和初期ごろ、上方落語界が弱体化しつつあることを危惧した五代目笑福亭松鶴は、1936(昭和 11)年、東成区片江町(現在の大今里南3丁目)の自宅を「楽語荘」と名づけ、上方落語の保存と後続の育成のため、同人を募って落語研究会を組織しました。また、同人の協力を得て、機関誌『上方はなし』の刊行や、自主公演「上方はなしを聴く会」の開催などの活動を続けました。この活動は、上方落語の歴史にとって重要な意味を持っています。2010(平成 22)年、楽語荘跡の近くに「芸人の町・片江」の顕彰板も建立されました。

- 『別冊上方はなし解説』三田純一編 三一書房 1972 *
- 『六世笑福亭松鶴はなし』戸田学編 岩波書店 2004 *
- 『六代目松鶴極めつけおもしろ人生』笑福亭松鶴著 神戸新聞出版センター 1986 *
- 『東成の歴史・芸能文化を語り、伝える。』東成歴史懇談会編 東成区役所市民協働担当 2011 *
- 「東成図書館」→「東成区を知る」→「郷土史よくある質問」→『以前、東成区内にあった「楽語荘」について』

東成区の民俗・文化

— すげがさ
— 深江の菅笠 —

深江の地域は良質の菅が自生していたことから、約2000年前の第11代垂仁天皇の時代に、大和の笠縫氏が移住して、代々菅笠が作られました。そのため、この地域は笠縫島と呼ばれたそうです。以降、歴代天皇の大嘗祭や、伊勢神宮の式年遷宮に際しては、深江から菅笠を献納しています。

また、江戸時代中期に流行したお伊勢詣りでは、旅の安全を願い、参詣客はこぞって深江で菅笠を買い求めました。その後、鍋敷きなどの菅細工も作られるようになり、明治・大正には、輸出もされました。

これら菅細工の技術を伝承する活動をしている「深江菅細工保存会」は大阪市指定無形文化財の認定をうけています。

- 『日本の伝統工芸 8 近畿』ぎょうせい 1985 *
- 『ひがしなり』大阪市東成区役所企画総務課広聴企画係 2000 *
- 『大阪春秋 91号 おおさか伝統の技・人』大阪春秋社 1998 *
- 『東成区史』大阪都市協会編 東成区制七十周年記念事業実行委員会 1996 *
- 『摂津深江の菅笠の研究』[鳥越憲三郎/著] 豊中市立民俗館 1956 *



名産深江笠(『摂津名所図会 3 東生郡西成郡』より)



東成区のキャラクター

「かさずきん」

「ルカちゃん」